

速報！ 開畝遺跡の発掘調査

1 開畝遺跡とは？

開畝遺跡は、中之条字開畝に所在する遺跡です。御堂川が形成した扇状地の扇央付近に位置し、武道館周辺から上

文化センターおよび図書館駐車場として利用されている場所に、坂城町新複合施設の建設が予定されています。この場所は、開畝遺跡という遺跡の範囲に含まれていることから、事業に先立ち、遺跡の発掘調査を実施しました。今回の探訪では、調査成果の一部をご紹介します。【写真1】



写真1 上空からみた発掘調査地

信越自動車道手前あたりまでが遺跡範囲とされています。

開畝地籍では、昔から土師器や須恵器などの土器が出土していました。長野県に関する歴史史料をまとめた『信濃史料』（昭和三十一年刊行）にも開畝遺跡の名が認められ、古くから知られた遺跡であったことがうかがえます。

さて、開畝遺跡ではこれまでに五つの地点で発掘調査が行われてきました。これらの調査では、縄文時代から中世まで幅広い時代の痕跡が見つかりました。なかでも奈良時代から平安時代の土器や住居跡が多く見つかったことから、開畝遺跡はこの時期に多くの人々が住んでいたと考えられています。

2 発掘調査はどうやるの？

発掘調査と聞くと、どんな光景が思い浮かぶでしょうか？ 小さなスコップやハケを使って土器を掘り出したり、貴重な出土品をそうつと取り上げたりする様子をイメージする方も多いかもしれません

ね。

もちろん、こうした作業も発掘調査の大切な作業なのですが、調査にはこれ以外にもたくさん大切な作業があります。発掘調査はどのように進められるのか、ご紹介します。

① 重機掘削：バックホウを使って、遺跡が見つかる深さまで土を掘ります。深さは調査を行う地点によって違うので、どのくらいの深さに遺跡が埋まっているのか、あらかじめ試掘調査で確認しておく場合が多いです。

② 遺構を見つける：重機掘削が完了したら、次は両刃鎌やジョレンを使って人の力で地面を削ります。土の色や混入物の違いから、竪穴住居の跡や穴の跡など（遺構）を見つけます。

③ 遺構の掘り下げ：見つけた遺構を移植などで掘り下げていきます。この時、土器や石器などの遺物が出土することもあります。遺物はすぐには取り上げずに、出土した位置や深さを記録



写真2 調査の様子

してから取り上げます。【写真2】

④ 写真撮影：遺構の掘り下げが完了したら、記録のために写真撮影をします。他にも、遺物がまとまって出土したときや、土の堆積、作業風景など、さまざまな場面で写真撮影します。

⑤ 測量・図面作成：見つけた遺構や遺物は、写真だけでなく図面でも記録します。位置や高さ、遺物が出土した状況、土がどのように堆積していたかなど、できる限りたくさんさんの情報を記録します。

このような流れで、発掘調査は進められます。現地での調